

2023年11月26日発行

風車

Vol 7

「仁木町の風力発電を考える会」

編集部 宮下 洋子

林副町長が、銀山に風車推進構想!!



去る、2023年9月25日、仁木町役場副町長室において、林幸治副町長：若松伸彦氏(日本自然保護協会)：中山誠基氏：中山奈月女史の四者で
《仁木町の風力発電に関する意見交換》
が行われました。

☆これまで町側は、風車建設に関して**中立**を宣言していましたが、会談の前半部分で林副町長は、**銀山に推進の立場**を色濃く出してきました。

☆若松氏も、銀山は自然保護の観点から何ら問題はなく、住民の不信感に対しては、地方自治体が間に入る必要があるとまで言及しています。

☆さらに後半で、林副町長は、風車を推進するために障壁になっている「仁木町の風車を考える会」(以後、考える会)と、宮下周平に対し、名指しで批判し、**個人攻撃**をしてきました。

☆これらはいずれも、看過できるものではなく、是非とも仁木の風車全面撤回を実現していく為にも、考える会への誤解を解く良い機会と捉え、住民の皆様にも正しくお知らせすることを決意致しました。



仁木町の関電風力発電計画についての見解—若松氏(抜粋)

- ★本計画は完全に自然環境への影響が膨大過ぎるので**計画の全面的許容はありえない**。ただ、**銀山側**は自然度が低く、土砂災害も含め自然環境面の影響は少ないが、居住地域が近く、住民との調整が必要である。
- ★**銀山の上に建てる**と、この銀山だけではなく町内からズラッと風車が見えてしまう可能性が強く、**圧迫感**がすごいことになる。
- ★**音**も聞こえると思うが、個人差があり難しいところ。以前の関電の説明会で不信感が相当あったとのこと。**地方自治体が間に入る以外に方法はないと思っている**。
- ★**風**のポテンシャルは相当ある。他所からの事業者の計画は**地域の脱炭素には貢献しない。むしろ後退してしまう**。
- ★**法人事業税**という話もあるかもしれないが、トータルするとちょっと**地域のメリットは少なすぎる**。
- ★豪雪で恐らく5メートルは積もると思うが、関電の**メンテナンスの配慮に懸念がある**。
- ★風車は結構落雷等による**火災**があるが、**火事になっても春まで消火ができない**。事業者は稼働し始めたら出来るだけ何もしたくないというのが本音。
- ★基礎工事における**地元業者採用については、結構使ってくれないケースが多い**。せいぜい林道の整備部分ではないか。
- ★事業者はアセス方法書から準備書の間でお金がかかり**準備書まで行って止めるという選択はなかなか取りづらくなる**。

林副町長:風力発電についての見解(抜粋)

- ★ルベシベ山から西側～稜線にかけては若松氏と同じ認識であり、**従前よりこのエリアに風力発電施設を設置するのは賛成ではない**。
- ★**銀山側は**、札幌森林管理局で**自然度が高くない**との話しを伺った。一般論として、**銀山地区の山林のように人の手が入った森林は、引き続き、人の手で維持管理を行うことが必要である**。台風により倒木や浅根による地すべりなど発生し、災害のリスクが増していることから、町では、森林環境贈与税や国の補助を活用し林道の整備を支援している

が、財源は乏しく思うように整備は進んでいない。**風力発電の建設に伴い林道が整備されれば**、国有林周辺の民地においても重機の使用が可能となり、手入れを行い易くなり、銀山の森林は甦るのではないか。その中、**今般の風力発電に伴い、林道が整備されることになるが**、このことは、自然を破壊することより、自然環境の維持や防災の観点より、メリットがあるのではないか。また、風力発電事業が地元事業者の育成や維持に、貢献することも期待できるのではないか。

その他、関西電力本体が運営するのではなく、地元の企業や金融機関と連携した法人を設立し、運営するとしていることから**法人事業税**も期待している。**風車を作ることによって出来る社会基盤が地域を支えてくれる可能性もあると考えている。**



★宮下洋子からのコメント



- ★「銀山地区の山林のように人の手が入った森林は、引き続き、人の手で、維持管理を行うことが必要である」と言う点については、全く同感です。
- ★銀山では、農地造成をしたり、高圧電線を作っただけでも、クマが下りてきたり、井戸水が枯れたり、地すべりが発生したり、河川の整備の回数が増えたりしていると聞いています。
- ★風車を作って、関電に林道の整備をしてもらえれば一石二鳥と考えられているようですが、大きく壊せば壊すほど、管理するのは大変で、**業者は未来永劫のアフターケアはしてくれません。**



巨大風車を作れば、管理面積が今よりも大きく永久的に増え、それをするのは、関電ではなく、**地元自治体**だということまで考えて欲しいと思います。**経済的にもさらに大きな負担が町に降りかかってくる**のではないのでしょうか。自然林

は壊してしまえば元に戻すのに**何百年もかかる**とされています。

森は農業や漁業の生命線

悠久の森から流れ出る栄養豊かな水が、あらゆる命を健やかに育て、農業用水となり、プランクトンを養い、魚介類も育てます。森は命の大元、**農業や漁業の生命線**でもあるのです。それを壊してしまったら、どこにもない健やかな仁木は死ぬのです。**風車を建てない方が仁木には若者も来るし、若者が来れば、後継者問題も解決するし、人口減少問題も解決するし、除雪の問題も解決するのです。若者たちは自由な発想で、次世代を作っていくのです。**(実際にメガ風車問題が発生するまでは、まほろばには、どんどん若者が集まっていたのです。)

法人事業税が最低になるように運用される会社

地元の企業や金融機関と連携した法人と言うのは、**特別目的会社(SPC)**のことで、**SPC**は資本金10万円の**投資会社**で、関電とは財産隔離された資産運用を目的としたペーパーカンパニーなので、経営不振に陥っても、関電は助けてくれません。

利益が上がれば株主に配当され、法人事業税が最低になるように運用されます。

住民トラブルがあっても、責任を取ってくれるわけでもありません。

すべての責任は自治体にかかってくるのです。

若松氏が、「**地元で大して利益は落ちない**」と言っておられるのはそういう意味からです。

関電の巧言令色は、契約するまでの話

林副町長の「風車を作ることによって出来る社会基盤が地域を支えてくれる可能性もある」と言うのは、いささか甘い幻想で、風車が出来ると、地元の問題がすべて解決できるかのような幻想を描いておられますが、関電の巧言令色は、契約するまでの話です。

副町長は風車推進

どちらにしても、この林副町長の後半の話こそ、**町側の本音**であり副町長は、風車建設で、地元にお金が落ちると見込んで、それに期待しておられます。副町長は**中立の立場を超え**、明らかに**経済優先で、風車推進**を宣言しています。しかし、「**地元で大して利益は落ちない**」と言うのが本当の所ではないでしょうか。



////////////////////////////////////

以降は、**林副町長からの、考える会、および宮下周平に対する批判又は反論**となっています。会談の大半はそのことに割かれており、一方的に批判されているので、これを良い機会と捉え、こちら側の主張もさせていただくことに致しました。

////////////////////////////////////

■林副町長

風力発電に反対されている方々は、低周波による健康被害をその理由とされている。国内外において、健康被害に関する事例が報告されており、十分に検証すべきものと考えているが、
低周波は、銀山地域においても、バス、トラック、トラクター、刈り払い機、農業用ラジコンヘリ、水の落差(滝、頭首工)エアコン室外機など様々なものから出ているが、何故、風車だけを切り取って問題視しているのか？
社会福祉施設の入居者への影響を、懸念されているのであれば、低周波の発生源すべてについて検討すべきではないか？

★宮下洋子

★まず、バス、トラック、トラクターなど、風車と規模も性質も違うものを、一緒くたにして論ずるのはナンセンスで非科学的です。24時間連続的に影響を受けるわけでもありません。とりわけ仁木に建つと言われている風車は、未だどこにも建つたことのない**6100キロワット級**



35年以上、低周波騒音問題に取り組んできたポルトガル・ルソフォナ大学マリア・アルヴェス・ペレイラ教授は、風車騒音に強く警鐘を発している

の巨大風車で、仁木は**人体実験の場**になるのです。**不安にならない方がおかしいのです。**

このスケールだと超低周波は、**20キロメートル**先まで届くと言われています。

また、**天然と人工の音を同一視することは出来ません。**天然の音は心身に同調し、心地良い場合が多いのですが、人工的な周波数は、耳に聞こえなくても、心身に悪い影響を与える場合が多いのです。

★あえて、それでも反論されるのであれば、本来は反論する方が、あらゆる騒音や、風車の低周波や超低周波や風車病についてもっと勉強して頂いて、比較検討される中で、きちんと真正面から説得力ある反論をされるべきだと思います。

■林副町長

また、考える会の勉強会において低周波が谷間とかに留まり、人体に影響するとの情報を発出し、その後北大の田鎖先生が勉強会でそのことを否定されたが、考える会としてどのように対応するのか。

★宮下洋子

★田鎖先生は、「低周波が銀山の谷間に留まるかどうかは、実際に計測したわけではないので、科学的に証明できません。」とおっしゃられただけで、否定されたわけではありません。むしろこのことは、科学者としての真摯な向き合い方で、尊敬すべきところです。

★8月26日に講演して頂いた、環境ジャーナリストの加藤やすこ女史は、斉藤武一氏と同じ考えで、主人の懇意にしているバイオ電子工学博士で、心身の健康と低周波や、超低周波との関係を専門的に研究しておられる増川いづみ女史（NASA やロシアの科学アカデミーにおられた方です）も、斉藤武一氏の言われることは、音叉の原理からして全く同感と言われています。

★仁木本町の津司康雄氏は、チラシの中で、科学的根拠となるスウェーデンの疫学調査を紹介されていました。

スウェーデン、ゲーテボルグ大学のエジャ・ペダーソン博士らは、地形や都市化の程度が異なる7か所で疫学調査を実施し、**平地よりも山間地など地形が複雑な地域では風車音が気になると訴える率が有意に高くなった（オッズ比4.8倍）**と報告しています。

★どちらにしても、5人とも共通して健康被害を認めています。
田鎖先生の話も、**そこが本筋**でした。先生は、**「科学的因果関係がないことが、風車病がないという事にはならない。科学がまだそこまで到達していないだけで、風車病が存在するのは事実である。」**



北海道大学工学研
究院 田鎖順太助教

「水俣病は、科学的因果関係がないということで、国も企業も長い間認めなかったのが、大惨事になってしまった。それを繰り返してはいけない。前もって予測できることに対しては【**予防原則**】が大切である」と言っておられます。以上が先生の言われる**本筋であり、結論**です。

この**一番大切なところを無視して**、末節の所で違いを見つけ、アラ探しをされるのはいかかなものでしょうか。

また、「**誰ひとり置き去りにしない**」と言われた田鎖先生の平等博愛のお言葉は副町長には響かなかったのでしょうか？♡♡♡♡♡

■林副町長

しつこく言い寄られたとか、近所の人から頼まれたので署名したが、反対ではないとのお話を少なからず、耳にしている。



2023年2月17日、町に提出した約
15,000筆の署名



★宮下洋子

確かに大勢の署名者の中にはそのような方も居られるかもしれませんが、それらは一部の方たちであって全体ではありません。逆に、推進派の副町長の前だから言い訳されている方もあるかも知れません。一部のことや末節のことを全体であるかのように言われ、すべてを否定されるのは、公人としての客観性に欠けると思います。

いずれにしても、**副町長自らが、住民の意思を軽視されるような発言をされる**とは、意外でした。これは**かなり重大発言**だと思います。住民の権利である**民主主義の根幹を否定される言葉**です。

副町長のお立場で間違っても発言されてはいけない言葉ではないでしょうか。

逆に、「風車に賛成ではないが、役場職員だから署名できない」と言うお話をよく耳にします。農業委員の方も、消防団の方も、ワイナリーの方も「立场上署名できない。」と言われたりします。かなり、プレッシャーがかかっているような感じ
です。
こちらの方が問題は大きいのではないのでしょうか。



■林副町長

配慮書の段階で、どこに立てるかなど、まだ、明確になっていないのに、推測や憶測で不確実な情報を発出し、敵味方で対立を煽るのではなく、関西電力を含め、多様な方からの説明を冷静に聞くべきものとする。これまでの勉強会において発信された情報のうち、明らかに事実と異なる事案を整理し、検証し、訂正すべきものは訂正すべきではないか、不確実な情報を発信するのは、やめるべき。

★宮下洋子

★これも、真正面から具体的な例を挙げて議論すべきですし、配慮書の段階で、あれこれ言うのは《時期尚早》と言うのが、副町長の持論ですが、時期尚早ではないようです。

★日本自然保護協会の若松氏は、9月の説明会でも、副町長との会談でも、結論を下すのは配慮書の段階が良い。先に進めば進むほど、事業者は後戻りできなくなる、と言っておられます。

推進側にとっては時期尚早ですが、反対側にとっては遅すぎるくらいです。



■林副町長

pixta.jp - 82249835



アセスへの対応について、これまでの対応を参考に、関係する地区の町内会長さんへの説明を行った。①
にも関わらず、関電と結託して仁木町が、風力発電を推進するために、秘密裏に進めたとのことをお話を耳にすることがある。②



★宮下洋子

★このことに関しては、考える会ではなく、「**総務経済常任委員会**」で、佐藤議員と野崎議員が質問したり、追及したりしたことで、むしろ、**町側に不審な点が多かった**経緯があります。

★配慮書の縦覧の前に（一般に公開される前に）、銀山や大江の自治会長だけを集めて説明会を行ったり（**佐藤議員が追求**）、5月の説明会に、自治会長の代わりに出席していた**野崎議員**が、記録が残されていないのは何故かと質問し、その説明会の内容を暴露したりと、爆弾発言があり、色々と**町の方が説明に苦慮していました**。

★ある自治会長さんの「**本町の方では説明会はしないのですか**」という質問に対して、関電が「**本町の方からは見えないので説明会は要らない**」とか、「**外部から過激な人たちが入ってくるので説明会はやらない**」とか、「**地元の住民には話さないように**」と口止めしたりしていました。その**問題発言の記録がなかった**のです。誰が考えても秘密裏に進めているのでは？

★また、その時の町側の説明によると、関電の説明会に立ち会っただけだと言われていましたが、**下線部分①**によると主語が町のように受け取れます。どっちなのでしょう。

★そのような点からも、**下線部分②**のような疑いを持たれても仕方ないことではないでしょうか。まさに、佐藤議員や野崎議員が質問したのもそのような疑いや不信感を持って質問されていたのです。傍聴していた私たちが不信感を抱くのは当然のことでした。

身から出たサビなのに、何か私たちが悪いように責任転嫁しています。

傍聴していない人は、副町長の言葉を信じてしまいます。

議会の傍聴者は大勢いたし、議事録にも残っていると思います。

ヤブヘビではないかと・・・

利権しかない風車 (若松氏との会話から)

(宮下)「建設された後も動いてない風車をよく見かけるのですが、何割くらい動いているんですか」

(若松)「2~3割くらいです。」(実際に使われる電力量のことでした)

(宮下)「電力は、**需要と供給が常に同時同量**でないと**ブラックアウト**になるので、風力は発電が不安定なので、**余った電機は捨てている**と聞いています。これ以上風車を増やす必要も、ましてや洋上風車まで増やす意味ないんじゃないですか？」どうしてどんどん増やすんですか？

(若松)「利権しかないですね」

「風車は回れば回るほど儲かるんです」

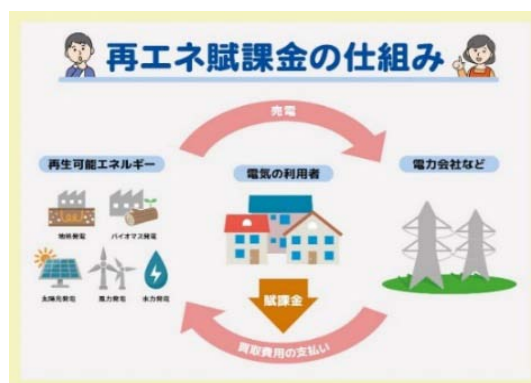
風車にはバックアップ電源が必要

かつて、地震で火力発電所が機能しなくなった時、**ブラックアウト**になりましたが、道内の**ソーラーも、風車も、何の役にも立ちませんでした**。風車にバックアップ電源が必要なことは、北電の方も認めておられます。

(佐藤議員も風車の総務経済常任委員会でそれを証言されておられます。)

だから、風車は**回れば回るほどお金になる**と同時に、**回れば回るほど二酸化炭素も出して**※、業者は回れば回るほどお金になるけれど、**国民は回れば回るほど再エネ賦課金**が電気代に上乗せされて増えるのです。

(※) 津司康雄著『風力発電に仁木町住民有志はなぜ反対するのか』Vol. 15 (11月20日発行) 参照



■林副町長

他にも、宮下氏が、12月に銀山地区の説明会において、アメリカではCDの製造が中止になったと発言されたことを記憶している、アメリカでは現在も年間3千万枚以上のCDが製造・販売されている。情報を整理検証し、根拠に基づく論理的な話をしたい。

★宮下周平

★これは、直接、現在ご活躍されている著名な音楽家から聞いた話を伝えた。確かに、調べると未だCDが発売されていました。だが、**話の本質はこの事ではありません。**



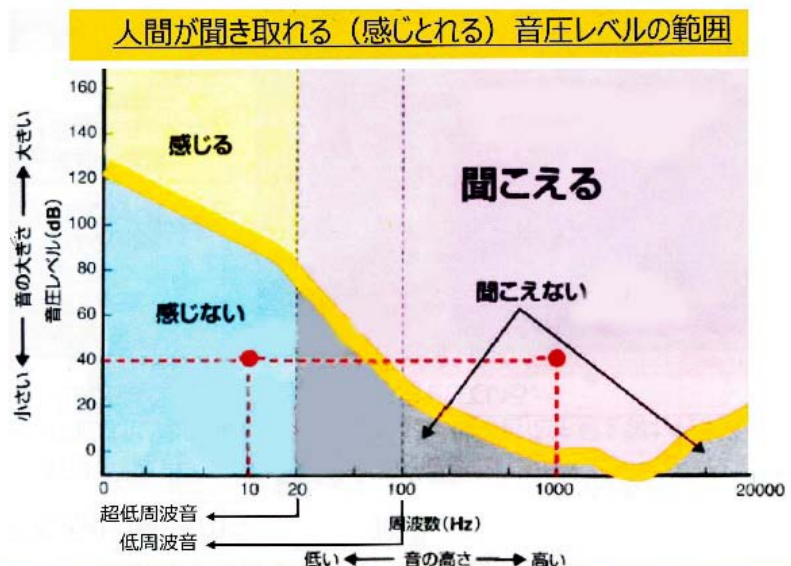
★関電は、去年12月の銀山での説明会で、デジタル騒音器で風車の音圧がそれほど影響がないことを実験して皆さんの前で披露しました。

しかし、私が説明したのは、音量によるデシベルではなく、むしろ音として人間が感知しない周波数ヘルツによる超低周波の有害性でした。風車による**デシベル×ヘルツの超(低)周波の重層的健康被害を説いたのです。**そ

の例えに、一時姿を消したレコードとCDの違いを比較して示したに過ぎません。

★つまり、高・低周波をカットするCDとカットしないレコード。CDが爆発的に売れて、世界を席卷したが、この40年ほどで、それが再び逆転したのです。それは、カットしたはずの高低周波数にこそ、心身に深く感応する波長があり、可聴音・不可聴音ともに、全体として聴いて感動するのが、人間の感性だからです。

つまり、見えない、聞こえない領域にこそ、この世界の神秘や真実(情緒)が隠されているからです。しかし、風車病は、音楽と違って、人体生理と相いれない人工の不可聴音が無意識のうちに心身をむしばむのです。



ISO7196:1995、ISO389-7:2019より一般社団法人日本風力発電協会にて作図

The Kansai E!

関電のごまかしに抗議したのです。

★実際、米国では、2022年アナログレコードの販売数が4千万枚以上でCDを上回りました。1987年以来初めてのことです。つまり、40年かけて、人類は、真実に目覚めたのです。それと同様のことが、風車でも起こっています。末節にこだわらないで、話の本質を聞いて頂きたい。

関電が耳に聞こえるデシベルだけ測って、ヘルツを無視して、住民をごまかそうとしたことに反論したのです。

■林副町長

考える会からは様々な情報が発出されているが、学習会では極端な発言をされるゲストの方もいて、正直なぜ反対なのかがわからず、反対のための反対という風にも捉えられてしまう。

★宮下洋子

考える会では、その道の専門家の方々をお招きし、講演して頂いております。どの方のどんなところが極端なのか、具体的に指摘して頂かないと分かりません。講演を聞かれていない方は、副町長の言われることが本当のように思われてしまいます。

これまで見てきたところでは、副町長の方が、話の本質をそらし、言葉尻をとらえて反対の為の反対をされているように思えます。

■林副町長

12月に銀山と大江で開催した説明会も追及型の反対集会的なイメージとなり、関西電力と冷静な話し合いが行われなかったことは残念、当日参加された銀山地区の住民の中には、反対派が住民の代表であるような姿勢で発言していることに疑問をもち、途中退席された方もいるほか、関西電力からの説明を聞きたかったのに、一方的な質問ばかりで残念であったとの意見も耳にしている。

★宮下洋子

★これも同じパターンで、副町長はご自分に都合のいい一部の人の発言だけを取り上げて、全体の雰囲気かのように演出し、反対している人たちを、一般住民から引き離し、悪いイメージを与えようとしています。反対することが、過激で悪いかのようなイメージづくりをしています。追及型の反対集会的なイメージが悪いわけではありません。それ

が住民の意思だと受け取るべきでした。副町長は、風車が建って欲しくないという大半の住民の切実な心情に寄り添って、謙虚に耳を傾けるべきでした。

★その後、銀山だけで87%もの反対署名を集めています。副町長の言われることが、いかに偏った否定の為の否定であるかは明白です。

★関電側にとって都合の悪い質問や反論が多かっただけで、関電がそれ対して答えられない空白の時間も何回かありました。

★実際には、関電の説明が長すぎて、もっと質問したい方が大勢手を上げられていたのに、強制的に打ち切られました。住民の意思を無視して強制的に打ち切る方が過激なのです。

ですから、実際の会場の雰囲気は、副町長の言われているようではありませんでした。録画記録もあります。

★事業者の説明会と言うのは、事業者の説明を一方向的に聞くだけの通過儀礼ではありません。事業者や行政が、住民の声に謙虚に耳を傾ける会でもあります。(副町長はまるで反対です)

住民が反対して悪いわけではありません。その為に環境アセスメントの中に、「住民説明会」が義務付けられており、住民が納得しなければ国から許可が下りないのです。

反対は、署名活動と同じように、正当な住民の意思であり、権利です。副町長は、そこに圧力をかけておられるのです。

それは地方自治の本旨から外れているように思います。



■林副町長 ❄️ ❄️

風力発電反対のボールをまほろばさんが持っているイメージしている町民も多く、町民の意識と乖離している感がある、対立を煽るラジカルな反対ではなく、一般の町民も理解できる活動を期待する。

★宮下洋子

町民にはいろんな方たちがいて色々な考え方があります。私たちが熱烈に応援して下さる方たちも大勢いるし、受け入れて下さらない方もいます。そのような方たちの部分だけを切り取って、まほろばのイメージを悪くするような印象操作をされ、対立をおおっているのは副町長の方です。私たちが過激なのではなく、過激と言うレッテルを張って、

町民と乖離させようとしているのは副町長の方であり、町民の4割(銀山では約9割)が反対しているのに、住民の意思を無視して圧力をかけ、無理やり推進しようとしている副町長の方が過激なのです。



■林副町長

- ★中山さんの奥さんが作成された絵本では、木を伐採すると熊が人里に現れ危害を及ぼすので、風力発電はやめるべきとの主張をされているが、熊の生態に詳しい酪農学園大学の佐藤善和教授によれば、身を隠せる場所を利用して熊が移動することを指摘している。
- ★札幌市が整備している「みどりの回廊」により市内を取り囲むように緑地(森林)で繋がれたことにより熊が移動しやすくなり、市街地にまで熊が入り込み、人への被害も発生した。このことから、札幌市では、佐藤教授のアドバイスを参考に、みどりの回廊の草刈りを行い、熊が身を隠せる場所を少なくすることにより、効果が現れているとのことである。
- ★根拠に基づき信憑性のある内容で発信することが必要であると思う。これまで、いろいろな情報を発信されているが、立ち止まって今一度、検証することが必要では。

★宮下洋子

- ★風車建設予定地の山の尾根筋近辺は、身を隠すことのできるクマにとっては安全なけものみちで、実のなる広葉樹の生えた自然度豊かな自然林は、クマを始めとする動物たちの食料豊かな生活圏です。そこを壊されると、動物たちは食料を探して里に下りてくるのです。
- ★副町長の言われているのは、降りてきてしまったクマをどうするかの対応策であって、降りてくる原因を作らないことの方が大切ではないでしょうか。
山を開発し林道を整備すれば、クマは余計に下りてくるのです。
人の居住区に隣接した木を伐採し、熊が身を隠せる場所を少なくすることは、一時的には効果があったとしても、根本的な解決ではありません。
- ★クマもお腹が空けば、危険を冒してでもまた、降りてくるのです。札幌で営農している時、夜のうちにトウモロコシやブドウやコクワが全

部食べられていました。昼間に出てきた時もあったので、隣の畑の人が、一日中爆竹を鳴らしていました。

★また、同じ木を伐採すると言っても、**里に近い木を伐採するのと、尾根筋の木を伐採したり、30メートルもの作業用道路を作るのとはわけが違います。何もかも一緒くたにしては正しい判断が出来なくなってしまいます。自然林を壊さないことこそ、動物と人が共生できる唯一の解決策なのです。**



■若松氏

ドイツにおいて風力発電による低周波の健康被害が問題となり、夜間の稼働中止などの措置をとった。現在は、稼働時間に応じて補償金が支払われる仕組みができ、住民にお金が支払われるようになったら、健康被害を訴える住民がいなくなった。低周波の問題とはこのようなものである。

★宮下洋子

「夜間の稼働中止などの措置をとった。」という事は、睡眠障害があるという事を認めたから、中止措置を取ったのであって、その措置が適切だったから健康被害が無くなったのかもしれないし、お金をもらったから、反対する人がいなくなったのかもしれないし、両方かもしれないし、どちらかに断定することはできないと思います。

////////////////////////////////////

編集後記

権力者が、一町民をなりふり構わず執拗に個人攻撃するというのは尋常ではありません。…これを機に考える会の中核を徹底的に攻撃し、さらに住民から引き離し、考える会の内部も分断しようという思惑が見えます。裏を返せば、銀山の風車建設を推進するうえで、考える会と宮下周平が町にとっては一番脅威と言う事でもあるのです。

今、止めなければ、準備書まで行くと止めるのは難しくなります。そして、長い長い戦いになります。

住民の不利益になることに反対するのは過激なことではありません。当然の権利です。権力でプレッシャーをかけたり、詭弁を弄して住民を印象操作することこそ過激なのです。



「統一教会」の汚名

今回の議事録に先立ち、副町長だけに限らず、町の権力者の方々が、まほろばと宮下周平を誹謗中傷し、「統一教会」という汚名まで被せて、流言飛語したことも、許せることではありません。このことは少なからず、先般行われた仁木町議会議員の選挙にも影響を与えていると思います。

仁木町の権力構造

権力者の思い通りにならないと、色んな形で圧力をかけて、潰してしまおうとする、仁木町の権力構造は、多くの住民を委縮させ、民主主義の育たない閉塞的な町民感情を作り出しています。このことに多くの町民が目覚めて立ち上がらなければ本当に風車は建ってしまいます。銀山は人の住めないゴーストタウンになってしまいます。

権力のある人は一人でも力があります。
住民の一人一人は弱いけれど、正しい主張をして大勢集まると、権力よりも強くなります。
権力のある人はそれが一番怖いのです。



「仁木町の風力発電を考える会」 宮下 洋子